

八重の篤志看護婦としての活躍を物語る帽子

2013年には大河ドラマ「八重の桜」が放送される。その主人公である新島八重は同志社では少しは知られた存在であるが、いったい全国でどれほどの人が知っていたであろうか。

八重の生涯を積極的に初めて取り上げたのは2009年にNHKにて放送された「歴史秘話ヒストリア」であろう。この番組では、その内容の賛否は別として、会津での籠城戦、新島襄や同志社の生徒らとの交流、新島襄永眠後の活動など、八重のさまざまな顔が紹介された。



番組では、日本赤十字社（以下、日赤とする）の篤志看護婦として日清・日露戦争に従軍したこともふれた。彼女の後半生での代表的な活動である。そして、この帽子がその象徴である。

しかし、不思議に思う人もいるかもしれない。この帽子は一般的に知られる篤志看護婦姿の八重が被る帽子とは異なるように見える。事実、別の帽子である。

では、この帽子は何か。同志社社史資料センターが管理する資料の中に「新島旧邸文庫」がある。この「文庫」はかつて新島や八重が新島旧邸で所蔵していた書籍類である。その中に「日本赤十字社篤志看護婦人会」という雑誌があり、裏表紙にこの帽子と同じスケッチがある。つまり、この帽子は日赤の篤志看護婦人会に関連があると考えられる。

さらに、センターには八重がこの帽子を被って写る写真が4枚ある。全て集合写真で、最古の写真は1902年10月28日に撮影された。その裏面には、大日本赤十字社京都支部篤志看護婦会第4回修業証書授与式挙行之際撮影」とある。ただし、八重はこの時篤志看護婦人会京都支部から看護学補習科修業証書を受け取っているので、この写真も篤志看護婦人



会に関係している。そして、ほかの3枚も篤志看護婦人会京都支部総会の記念写真である。確認する限り、八重の帽子は必ず篤志看護婦人会と関わっている。

では、八重と篤志看護婦人会の接点はどこなのか。八重と日赤の関係が資料で最初に確認される日は正社員となった1890年4月26日である。日赤の正社員は、一定の金額を日赤に寄附した人物に与えられる職名である。同時に、正社員は志願して篤志看護婦人会に所属できた。この婦人会の目的は、監督官として若き看護婦を率いて看護活動に専念し、また、社会的地位が低い看護婦という仕事の重要性を世に伝え、その地位の向上に貢献することである。つまり八重は、看護行為とその地位向上に貢献するという二つの役割を担った。この帽子はこの八重の篤志看護婦としての矜持を今も伝えてくれる彼女の遺品である。

(同志社社史資料センター)